

新聞配布を通して、
皆さんとお茶っこさせてもらって、
あったかい東北の皆さんが好きになって、
神奈川から女川町に移住しました！
これからも皆さんと一緒に、
東北の地で歩んでいきたいと思います。

きずな新聞 ひで(女川)



震災発生後、牡鹿地区に入り
巡回診療にあたりました。
ある避難所に行った時、
「この赤十字マークの服を着た人が
来てくれるとうれしい、安心するよ。」
と言われたことが忘れられません。
これからもずっと心に残ります。

庄原赤十字病院 宇都宮

2019年秋、
新聞配りに参加したときに復興住宅の
住民さんから頂いた弁慶草の苗、
去年も今年も綺麗な花が咲きました。
頂くとき丁寧に丁寧に包装してくださり、
その気持ちを忘れずに、大切に大切に
育てています。皆さんの未来にも、
大きな花が咲きますように。

きずな新聞 小川(千葉)

3日間かけて石巻赤十字病院に駆けつけました。
現実を疑う光景の中、
東松島市小野地区の避難所への道中、
自転車で道案内してくれたお爺さん！
「ありがとう」と言って、汚れた1万円札を
出されたそのお気持ちが今も忘れられません。
みなさん元気ですか？
お体にお気を付けてください。

日赤長崎県支部 Y

「きずな新聞、お届けにきました！」
ドアをノックするのはドキドキでした。
「何処から来たの？」「愛知から来ました」
「遠くからありがとう」この会話をして
頂いただけで、本当に嬉しかったです。
最初は「ボランティア」でしたが、
今は「石巻大好き人」です。
また遊びに行きます。

きずな新聞 キモサベ(愛知)



震災当日、午後6時に栃木を出発し東北に
向かいました。翌朝石巻に到着し
蛇田小学校に避難されている方々の支援を
させていただきました。
「来てくれてありがとう」の一言、
安心された表情が忘れられません。
コロナに負けないで。
くれぐれもお身体には気を付けてください。

足利赤十字病院 鹿野菊野

震災1ヶ月後の石巻市で活動しました。
巡回診療で訪ねた小学校で「こんにちは！」
と大きな声と笑顔で挨拶してくれた子供たち。
元気な姿にこちらが癒されました。
マスクで目元しか見えなくても。
人と距離があろうとも。
挨拶のくれる元気や癒しがあると思います。
一緒に乗り越えていきましょう！

静岡赤十字病院 三浦

3.11を思う時、
まだがれきに囲まれながらも
懸命に復興への道を歩もうとされていた
皆様の力強さに感銘を受けた日々を
思い出します。
東北の厳しく豊かな自然の尊さと、
当たり前のような日常の大切さを
教えていただきました。

日赤医療センター 川島佐智子



石巻地域の交流センターを宿泊所として
お借りし、避難所に指定されていた
小学校で3日間活動しました。
最終日の朝、救護班のメンバーが
駐車場に揃うのを待つ間、
ほんの数分でしたが、草むらに四葉の
クローバーを発見し気持ちがホックリしました。
この地に幸福が訪れますように。

大分赤十字病院 やよい

東日本大震災後、
最初の支援活動が石巻市でした。
支援活動のため徒歩で移動していた時、
住民の方が「こんな時にここへ来るのは
大変ですね」とお声をかけてくださいました。
ご自身が大変なお立場なのに、恐縮しました。
お体を大事にいただき、
日々の生活をお過ごしください。

京都府赤十字血液センター 吉浪直大



入社2年目だった私は、
右も左も分からぬまま派遣され、
石巻市で初めての救護活動にあたりました。
とても寒いくでの活動でしたが、
みなさんの温かさに心が救われました。
熊本では「熊本地震」
「令和2年7月豪雨」を経験。
あの時の活動があったからこそ乗り越えられました。

日赤熊本県支部 荘田卓哉

蛇田中学校で救護活動をいたしました。
皆様は、体育館、学校校舎で
生活をされていましたが、
学生の方は進んで校舎の掃除や
挨拶をしてくれていたことが印象的でした。
明るい笑顔や挨拶が元気や勇気を
くれることを教わりました。
ありがとうございました。

成田赤十字病院 上野真知子



私は2011年4月14日に空路で秋田へ、
翌15日から18日まで救護活動をしました。
実質4日間でしたが、
自分たちにできることを一生懸命
させていただきました。
職場へ戻ってからは、動画で被災地の情報を
発信しました。少しずつ皆様の心の傷が
癒やされていることを願います。

沖縄赤十字病院 新里譲



もう10年になるんですね。
新型コロナのため、
石巻とは1年間ご無沙汰してしまいましたが、
また会いにいきますね。
時間が経っても悲しいお気持ちは
変わらないと思いますが、
少しでも元気出してもらえると嬉しいです。
新聞配りにいったらお話ししよう。

きずな新聞 佐藤俊一/しゅん(東京都)

10年間、
たくさんの涙と笑顔を皆さんと共有しました。
直接お会いした方、
紙面を通して出会ってくださった方、
すべての出会いに感謝です。
11年目のこれからも、共に歩んでいしましょう。
あの日を生き抜き、
そして今日まで生きててくれて、ありがとう。

きずな新聞 岩元暁子/あき(東京/石巻)

